

参加費：無料

令和 6 年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費補助金
標準開発フュージビリティ・スタディ（FS）
（環境規制に活用可能性のある包括的計測手法の海外標準化動向調査）

包括的計測法国際標準化調査研究会ワークショップ ～ 海外における包括的計測手法の環境規制への活用動向 ～ の御案内

【主催】 一般社団法人産業環境管理協会

開催趣旨

近年、3 万種以上の化学物質が製造されており、様々な製品として我々の生活に利用されているが、製品製造時及び使用後の廃棄段階でこれらの化学物質が環境に排出され、残留性有害汚染物質（POPs）として人の健康や生物に影響を与えることが懸念されている。多くの化学物質を個別に測定するには限界があるため、欧州では EU における PFAS 制限にみられるように、新たな環境汚染物質の規制に個別の化学物質を測定するのではなく、類似構造物質群として測定して総量で規制する等、新たな規制の考え方が生まれている。このような背景より、国際的に水や大気中の未知の化学物質を網羅的に把握しようとするノターゲットスクリーニング（NTS）の開発が進められている。2023 年 7 月にドイツより ISO/TC147（水質）に NTS を用いた水中の有機化合物の測定法の新規提案があり、現在国際規格化が進行しているところである。

他方、国内においては、産業技術研究所及び国立環境研究所等において本手法の研究が行われており、欧米諸国に比べ、組織的な開発が行われていないが、本手法の国際標準化の動きが、今後、本手法を取り巻く環境規制の在り方に影響を及ぼす可能性があるかどうかについて、令和 6 年度経済産業省国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費補助金を活用し、一般社団法人産業環境管理協会が事務局となり、研究者を中心として本手法に関心のある利害関係者から構成される研究会を立ち上げ、NTS の国際規格開発及び欧米諸国の研究動向を調査し、関係者間で NTS の情報交換を行っている。

本ワークショップは、本手法の国際標準化動向等、研究会で得られた情報を広く共有することにより、新たな環境計測手法や海外の環境規制との関係性に関する理解を深めることを目的として、ワークショップを開催するものである。

開催日時

令和 7 年 2 月 13 日（木） 13 時 30 分～ 15 時 40 分（WEB 開催）

<定員> 200 名

申込方法 ・ 受講方法

申込は不要です。

※受講を希望する方は、当日（2 月 13 日）、[以下の URL に接続のうえ、ご参加ください。](#)

Cisco Webexシステムを使用（※通信環境やシステムは各自ご準備ください。）

- 手順1 事前にCisco Webexシステムをダウンロードして下さい。
- 手順2 当日は、開始10分前に、以下に記載のURLへログイン（接続）してください。

【参加者用 URL】

2/13 包括的計測法国際標準化調査研究会ワークショップ
～海外における包括的計測手法の環境規制への活用動向～

★参加リンク:

<https://jemai-meeting.webex.com/jemai-meeting/j.php?MTID=m1445a766f7b2277a5cf966235b731e55>

ウェビナー番号: 2519 725 9886

ウェビナー パスワード: zmPh4WdtG82 (96744938 電話またはビデオ システムからダイヤルする場合)

プログラム

※プログラム内容は変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

時間	講演タイトル	講演者
13:30～13:45	～ 研究会の紹介 ～ 欧米諸国の NTS の規制への活用可能性	包括的計測法研究会事務局 一般社団法人産業環境管理協会 大野 香代 氏
13:45～14:15	環境ノンターゲット分析の常時および 事故時監視への応用	国立研究開発法人国立環境研究所 橋本 俊次 氏
14:15～14:45	環境ノンターゲット分析の国際的潮流	国立研究開発法人産業技術総合研究所 頭士 泰之 氏
14:45～15:15	ペルおよびポリフルオロアルキル化合物の 包括的管理に向けた測定手法と課題	国立研究開発法人産業技術総合研究所 谷保 佐知 氏
15:15～15:35	質疑応答	
15:35～15:40	閉会挨拶	経済産業省

問合せ先

一般社団法人産業環境管理協会 環境管理部門 国際協力・技術センター
住所：〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1 丁目 3 番 1 号 幸ビルディング 3 階
TEL：03-3528-8154

